

日本地震学会員のみなさま

地震学会「南海トラフ沿いの巨大地震の発生予測」にかかる共同勉強会・ミニシンポジウムの開催予定について

2016年12月6日

日本地震学会会長 山岡耕春

現在、国では南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性と防災対応検討の検討が進められています。地震学会では、これまで地震火山噴火予知研究協議会との共催によるシンポジウム（9月30日）や、地震学会での説明会と意見交換の場（10月6日）、また有志による集会（10月4日）を通じて、また会員・代議員 ML 等を通じて意見交換が行われてきました。理事会ではこの問題に対して一層議論と意見交換を深めるために、災害情報学会との協働による合同勉強会と、地震学内部での議論を深めるシンポジウムの二つを企画し、準備を進めています。

開催日程や会の進め方についてまだ未定の部分が多々ありますが、会員のみなさまには現時点での企画をお伝えし、日程確保をよろしくお願いいたします。多くの方の出席を期待しております。

■ 1. 日本地震学会・日本災害情報学会共同勉強会

「南海トラフ地震の発生予測と社会的課題」

現在、内閣府において、現在、南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性と防災対応検討の検討が進められるなど、海溝型巨大地震の発生予測と地震津波防災への社会的関心が高まっています。南海トラフ地震の発生予測と防災に向け、観測研究の現状と限界、将来の見込みを整理するとともに、不確実性が大きい地震発生情報をどう防災に役立てることができるか、社会からはどのような地震防災情報が求められているのかを考えます。地震防災情報を作る側の地震学会と、情報を受け防災に活かす側の災害情報学会との協働により、災害軽減にむけた研究の方向性を探ります。

日時： 1月28日（土） 13時～17時（予定）

場所： 東京大学地震研究所 第1会議室（2号館5階） （定員120名）

対象： 地震学会員、災害情報学会会員

話題提供者：

鷺谷 威 （名古屋大学院環境学研究科教授）「地震発生予測と災害情報（仮題）」

吉井博明 （東京経済大学名誉教授） 「地震予測情報の社会的側面（仮題）」

- * 話題提供の後に、会場からの質疑応答、参加者での意見交換の時間を十分に設けます。
- * 講演録・開催記録をすみやかに公開するものとします。

* 会場の都合がありますので、予め出席予定者の連絡をいただく予定です。

■ 2. 地震学会ミニシンポ「南海地震発生予測研究（課題）」

現在、内閣府において南海トラフ地震発生予測にかかる検討が進められています。地震学会では、9月30日のシンポジウム（地震火山噴火予知研究協議会との共催）、地震学会秋期大会時の説明会に続き、地震学に関わる研究者が南海トラフ地震の発生予測に向けた現状と課題、研究の方向性等について考える「ミニシンポジウム」を開催し、議論を深める場を設けたいと思います。講演者は、予めコンビーナが多様な分野・意見を考慮して依頼した招待講演者のみを予定していますが、パネルや会場との意見交換を通じて、参加者のみなさんからの意見と議論を求めます。ミニシンポ終了後には、講演者のみならず一般からも広く意見を求め、「地震学会モノグラフ」に意見をとりまとめる予定です。

日時： ~~2017年2月（土曜または日曜の午後）~~開催予定）未定

場所： 東京大学地震研究所 第1会議室（予定）

コンビーナ： 酒井・中川（地震学を社会に伝える連絡会議メンバー）・ほか（調整中）

進行（予定）： ・招待講演者による話題提供

・パネルディスカッション（講演者ほかの登壇を予定）